

大学図書館による展示

大学図書館のお宝、お見せします

■跡見学園女子大学

<「3. 11と新たな『戦後』」について>

東日本大震災が発生してから、600日以上が経過した。その日の記憶は次第に薄れ、日常が戻りつつあるように感じるが、一方で意識しないところでなにかが変わりつつある。

それは、家族についての意識の変化や、地域社会の意識の変化、言葉の微妙な変化などで見受けられるかもしれない。「エネルギー」「コミュニティ」「3. 11」などのテーマに絞り図書を選んだ。

こういう変化は図書出版のありようによつてどのように影響を与えているか、所蔵資料を通じて展示を行ったのが今回の展示である。

今回、本学学園祭実行委員会が行っている「フェニックス」というメッセージアートの実演もあわせて行った。2年生の学生も参加した。この学生はすでに3. 11を本学では経験していない。時間の早さを感じるとともに、こうした学生にとっては、今後の人生の価値観を左右する大きな事件が3. 11であったと思う。

地震は去ったが、その後の社会変化が、あたかも先の世界大戦の戦後に戦前とは異なる社会ができたように、新たな「戦後」と感じられるのである。



■国立女性教育会館

<NWEC のあんな本、こんな本～男女共同参画を読む：絵本から専門書まで>

お宝は決して古いものだけではなく、現在の私たちの図書館事業の活動そのものが「お宝」、図書館ができる知識と情報の提供は、将来に向けての贈り物ではないだろうか。

国立女性教育会館女性教育情報センター（以下、NWEC 情報センター）は、男女共同参画社会形成を目指した女性・家庭・家族に関する専門図書館である。

平成22年度からNWEC情報センターは、全国の大学図書館、女性関連施設、公共図書館、企業図書室等の機関を対象に、NWEC情報センターの蔵書から、「異性関係」「コミュニケーション」「食」「大学」「男女共同参画」「女性研究者支援」「女性のライフプラン」等様々なテーマにあわせ、図書をまとめて貸し出すNWEC図書パッケージ貸出サービスを全国展開している。

今回は、学生生活、社会生活に役立つ知識と情報を提供するこのサービスを、まず知っていただくために、「生き方」「育児」「家族」「健康」「働く女性」などをテーマに、絵本から中高生が読める本、大人・社会人までの読者を対象に、メンタルヘルス、アサーティブ・コミュニケーション、イクメン、親の介護などの本を用意した。



参加されたお客様の中でも大学の先生方、企業の男性、そして高校図書館の司書さん、様々な方の手に取っていただいた。

■埼玉純真短期大学

<発達障害支援について考える>

保育・教育系の短大である本学は、平成19年度から平成21年度に亘る3ヶ年、「発達障害」に関わる文部科学省の委託事業に取り組み、研究を重ねた事により、その分野における専門的知識を持つ教員を擁するようになり、現在では、地域の要請で子どもの発達相談を受けるなど、様々な活動を展開している。この活動を基に、昨年度に引き続き今年度も**特別支援教育**をテーマとした研究会を平成25年2月に開催する予定である。

そこで、今回の出展は、特別支援教育や発達障害支援について、ゼミの学生が調べた成果を展示するとともに書籍や検査用具等を紹介した。これは、教育の継続性という観点での展示であり、このことが本学における“知”の宝でもあり、また大学図書館と授業がどのような繋がりを持っているのか、その一端を公開したかったという趣旨に基づいている。



見学者の方からは、特別支援教育に対して学生がどのように理解し、捉えているのかが分かり、とても良い展示であったとお言葉をいただいた。

この「図書館と県民のつどい埼玉」における大学図書館の展示の中では、本学が初の短期大学としての参加であり、とても学ぶことが多かった。来年度以降も是非出展したいと考えている。

■芝浦工業大学

<Enjoy Robot!>

芝浦工業大学は「ロボットを楽しむ」をテーマに、ロボット系の学内サークルの協力を得て展示を実施した。

主な展示品はロボット2体(「かわさきロボット」「二足歩行ロボット」と、ロボット関連図書である。ロボットと解説のパネルは、学内のロボットサークルが製作をしたものを公開した。一般的に目に触れる機会の少ない、本格的な競技用ロボットと二足歩行ロボットは、多くの人に興味を持って見ていただいていた。

関連図書については多くの観覧者が「ロボットの楽しみ」を感じられるよう、専門書ではなく小説などの一般書を展示した。多くの人が手にとり、しばしば話のきっかけともなっていて、楽しんでいただくことができた。

さらに本学の情報誌『OH! MY LIB CAFE』の3キャンパス図書館紹介号(14号)と、イベント「選書ツアー」の紹介をした号(16号)、利用案内の小冊子を配布した。



大学図書館による展示

■城西大学

＜日本の伝統医学

～暮らしに生かす漢方の知恵～>

本学は漢方医学に関する古書や調剤のための道具などを展示した。これらの資料は本学薬学部において現代の医療、薬学、栄養学を学習する上で日本古来の漢方や医学書を学ぶ重要性と、建学の精神に結びつく学士力・人間力の涵養に資することを目的として蒐集しているものである。今回の展示では実際に江戸時代に使われていた薬匙、薬籠などもご覧いただき、漢方について関心を深めていただけた。また本学デジタルアーカイブ・コレクションでは今回の展示以外の古書もご覧いただき、古書の新しい利用方法にも関心を持っていただけた貴重な機会となった。

【主な展示品】

- ・ 「黄帝内經素問註證發微」(寛永5年)
- ・ 「黄帝内經靈樞註證發微」(寛永5年)
- ・ 「廣惠濟急方」(寛政元年)
- ・ 「本草綱目」(慶長元年)
- ・ 薬匙、薬籠、薬缶、薬研
- ・ デジタルアーカイブ・コレクション「解体新書序図」ほか



また、「とびだそう！大学図書館はもっとできる～地域とともにある大学図書館を目指して～」のポスターにより、図書館の行っている地域連携活動にも興味を持っていただいた。

■女子栄養大学

＜画家の手遊び～食べ物の風景～>

画家は、鳥取県出身の明治37年生まれ、野口義恵。女子美術学校(現・女子美術大学)に学び、挿絵画家として活躍した。

本学との関わりは、戦後、復刊した『栄養と料理』第12巻(昭和21年)の表紙画を描き、その後昭和23年まで表紙画のほか挿絵を入れた随筆も載せている。縁あって「食べ物」がテーマの画帖『ぢきろう』が寄贈され、そこには、菓子、野菜、果物、料理など四季折々の食べ物、戴き物や買い求めた物、また旅先でなどの詞書きとともに食べ物や縁の人への感懐も添えられている。これらは昭和10年代～50年代に描かれた。画帖装。全60帖。

【展示資料】

- ・ 画家 野口義恵の描いた『ぢきろう』の原本と複製本、『栄養と料理』第12巻(昭和21年)第1号、挿絵を描いた図書
- ・ 『ぢきろう』所収の画に関連した本学所蔵図書(菓子、野菜、郷土料理など)
- ・ 本学図書館開催『ぢきろう』1～3回展示ポスター+郷土菓子の菓子箱等



来場者は、この作者の画を初めて見た方ばかりであるが、魅了された方は多いと感じた。描かれた食べ物を見て、食欲が湧き、詞書きを読めば郷愁に誘われ、『ぢきろう』の世界を十分に味わっていただけたと思う。

■聖学院大学

＜本からはじまったアメリカ奴隷解放運動：
ストウ夫人著『アンクル・トムの小屋』発行
160年を記念して＞

聖学院大学では、発行から160年を迎える
ストウ夫人著『Uncle Tom's Cabin（アンクル・
トムの小屋）』（1852年）の初版本を中心
にアメリカの奴隷解放運動と、約100年後の
公民権運動の指導者キング牧師とマルコム X
に関する資料の展示を行った。

『アンクル・トムの小屋』は南北戦争のき
っかけとなったとも言われる1冊。この本に
まつわるエピソードなどとともに、「本」とい
う媒体が持つ力について、思いをはせた方た
ちもいた。またストウ夫人直筆の手紙は、書
き手の性格を感じるような美しい筆跡で、多
くの方の興味を引いたようだ。

キング牧師とマルコム Xに関する資料では、
本だけでなく映像資料なども展示した。人種
差別の撤廃を求め同時代を生き、対照的な
二人の指導者の生き様やメッセージを資料と
ともに紹介した。

これらの展示資料を前に、多くの来場者が
足をとめ、説明者の話に耳を傾け、話も弾み、
交流の場となった。



■東洋大学

＜古典から妖怪まで ～創立125周年記念展
示より～＞

東洋大学は、2012年11月23日に創立125
周年を迎え、同年5月30日から6月5日ま
で東洋大学創立125周年記念事業の一環とし
て、東洋大学図書館特別展示『存在の謎に挑
む 哲学者井上円了』を丸善丸の内本店4階
ギャラリーで開催した。

今回は、この特別展示で紹介された貴重な
資料の中から『四聖像』、『カント三批判書』、
『妖怪絵巻』、『稲生物怪録』、『をこぜ』、『百
人一首』（奈良絵本）、『百人一首かるた』、『小
倉擬百人一首』、『吾孀曲狂歌五十人一首』、『雨
やどり』、『鶴亀双紙』、『つれづれ草』の各資
料の象徴的な場面をパネルにしてキャプション
を添え展示した。



これらの資料は、哲学者・教育者そして迷
信打破の妖怪博士としても知られる本学創設
者井上円了にゆかりのあるものや、東洋大学
が井上円了の理念を受け継ぎ日本の伝統文化
を次世代に伝えるために収集した貴重な古典
籍の資料である。

今回の展示では、古典から妖怪といった幅
広いジャンルの資料を紹介することができ、
多くの方が足を止めて見学していた。

大学図書館による展示

■文教大学

＜冬来たりなば春遠からじ ―シェリー・コレクション―＞

バイロン、キーツと同時代のイギリスロマン派の詩人パーシー・ビッシュ・シェリー (Percy Bysshe Shelley, 1792-1822)。その名に馴染みがなくとも、“冬来たりなば春遠からじ”の一文(シェリー作「西風に寄せる歌 ―Ode to the West Wind―」の末句)や、夫人メアリー・シェリー作の小説『フランケンシュタイン』は、知らぬ人はいないだろう。“Radical Shelley”と言われ、わずか30年の波乱の生涯に、数々の名作を生んだ。

当館では、1985年に星谷剛一元教育学部教授の寄贈図書を根幹としたシェリー・コレクションが発足し、さらに1989年、古岡秀人元本学理事(学習研究社会長、当時)の援助を得て多数の資料を入手、今日の形となった。

今年にはシェリー生誕220年、没後190年の節目の年に当たる。そこで、国内最大規模を誇る当館のシェリー・コレクションから、ケルムスコット版の希少な詩集、シェリー自筆の献呈記があるものを含む初版本7点、オックスフォード大学ボードリアン図書館所蔵シェリー手稿複写資料シリーズ、ローマのキーツ・シェリー博物館で入手した詩の朗読CDなどを展示した。西洋古版本はマーブリングなどの装丁が美しく、見学者には本を手にとって見てもらった。「シェリーについて知る機会がなかったので、展示開催は良かった」との感想を多く頂いた。今後に生かしたい。



■ものづくり大学

＜国宝・重要文化財の調査報告書と学生の文化財調査＞

ものづくり大学は、図書館と県民のつどいに始めて参加した。そのため、図書情報センターの紹介と夏の日差しをさえぎるゴーヤの緑のカーテンの取り組みも展示をした。

さて、お宝と呼べるものが少ない中で、2001年の開学から4年間特任教授として学生を叱咤激励した故田中文男棟梁から寄贈を受けた国宝や重要文化財の調査・修理報告書を製本し大切にしている。

本学建設学科では、伝統工法を軸とした木造を重視しており、1年生は大工道具を自前で整え、多くの大工棟梁の指導のもとに木造建築に入門する。そして、コンクリート、鉄骨などの構造も学びながら、ある程度の比率の学生が木造に魅了されて、4年生の卒業研究で木造研究室の扉を叩くのである。中でも白井研究室、横山研究室などでの文化財の調査修復への貢献活動は、年を追うごとに充実しており、今年度は『のぼうの城』にちなむ『旧成田領に残る歴史遺産』が横山研究室から上梓された。

今回の展示では、前述の文化財報告書と、学生の卒業研究での取り組みを、東照宮、あるいは埼玉県内という切り口で連続させた展示を試みた。少々動きの少ない展示ではあったが、原寸大の「平三斗(ひらみつど)」模型に足を止めていただいた方々など、本学の特色の一端を感じていただけたなら幸いである。



■立正大学

＜居留地時代の築地と横浜＞

明治期の外国人居留地として横浜や神戸は良く知られているが、東京の築地にも居留地があったことはあまり知られていない。現在、築地には外国人居留地だったことを示す痕跡は、ほとんど何も残っていない。聖路加（せいルカ）国際病院と近くに残る街灯1本が当時のなごりである。幕末から明治期の築地は、慶應義塾大学、立教大学、青山学院大学、明治学院大学等の発祥の地であり、大学人にはたいへん興味深い場所である。日本の近代化に大きな役割をはたした築地と横浜の居留地の様子を当時の地図や錦絵などでご紹介した。

展示資料

- ①東京築地鉄砲州居留地中絵図 / 山田曜斎写図 [東京]: 蔦[屋]吉[蔵], [明治元(1868)]
 - ②東京築地ホテル館表掛之図 / 一立齋廣重(三代目)筆 東京: 若甚板, [明治2(1869)]
 - ③東京名所一覽独案内 / 一曜齋國輝[二代目]画図 東京: [蔦屋吉蔵], [明治2(1869)]
 - ④東都築地保呂留館繁栄之図 出版地不明: [慶應4(1868)]
 - ⑤横浜明細全図 / 一川芳員画 [横浜]: 師岡屋伊兵衛, 慶應4(1868)再板
- 他8点



■みなさんの学びを支援する～SALA が紹介する埼玉の公開講座～

SALA (埼玉県大学・短期大学図書館協議会) に加盟する埼玉県内の大学・短大・機関は、市民のみなさんが自身の人生を豊かに生きる支援として、社会人入学や大学図書館の社会へのサービス提供をはじめ、簡単な手続きで気軽に受講できる公開講座やセミナーなど、様々な事業を広く公開している。

今回の『図書館と県民のつどい埼玉 2012』にあわせ、SALA 加盟館が 12 月以降に開催を予定している講座情報などを一覧にまとめ、冊子「みなさんの学びを支援する～SALA が紹介する埼玉の公開講座～」として印刷し、配布した。

“さいたまを、ささえたい、さいこうの、サービスで。” これは、SALA の熱い思いだ。ギャラリーの前を通るお客様に手渡し、さらに詳細な講座の内容は別様式でご覧いただいた。SALA 加盟館は、みなさんのご参加をお待ちしている。

